



日本共産党区議会議員

こんにちは
伊藤和彦です

自宅 足立区花畑6-7-23
足立区役所 電話3880-5111(内線4650~4654)
日本共産党区議団 直通3880-5770

http://www5.familie.ne.jp/~k-itou/index.html

第三回定例議会始まる

原油高騰・物価高などから 区民のくらしと営業守れと迫る — 日本共産党の代表質問 —



足立区議会・本会議場

区長答弁

「区民生活への影響については、強く憂慮している。区としても、区民生活に直結する施策については支援を行って参りたい」

9月22日から10月24日まで、33日間の会期で第三回定例議会が開会されました。日本共産党を代表して大島よしえ議員が質問に立ちました。その一部を報告します。

福田首相は、「構造改革」の名で国民生活を犠牲にし、一部の大企業だけを応援する政治が貧困と格差を広げ、経済政策で進退窮まり、突然きわめて無責任な政権投げ出しを行いました。自民・公明政権が政治的な解体的状況にあることを象徴する出来事です。

いまこそ大企業から家計へと経済政策の軸足を移す、大きな

転換が求められています。疲弊した区民のくらしの実態は、我が党区議団が毎年行っている区民アンケートにもはっきりとあらわれています。「この1年でくらしはどうなったか」の問いに「苦しくなった」と答えた区民が、78.0%で昨年より2.6ポイント増え、苦しくなりました。

原因の第1位は「物価高」です。「この区民のくらしの実態を、区長はどのように受け止めているのか。」と質問しました。



「後期高齢者医療制度」見直しだけでは事態は変わらない
廃止を求めることこそ住民守る責任ある態度ではないか

区長は「金融不安や、原材料高騰の影響により、とりわけ区民生活への影響については、強く憂慮している。」という認識を示し、「区としても、区民生活に直結する施策については、国や都との連携も図り、支援を行って参りたい」と答弁しました。

もありませんが、いま健康・長寿社会実現に最も弊害となっているものの一つが75歳という年齢で人間を差別し、医療に格差を設け、高齢者の医療抑制を図ろうとする高齢者向けの後期高齢者医療制度です。今回、政府は見直しを行ったがそれでも多くの区民が負担増になる上、将来に渡って負担増を高齢者に強いる事態は変わらない。「区長はこれだけでよいと思っているのか」、また「区民の立場に立つならば、高齢者差別のしくみそのものを廃止し、根本的に再検討するよう国に働きかけることこそ、区長として住民を守る責任ある態度ではないか」と質問しました。

区長答弁
「現状で決してよしと考えているわけではない」
区長は、「現状で決してよしと考えているわけではない。将来にわたり安心して医療を受けることの出来る仕組みが不可欠であり、今後も高齢者の負担軽減に向けて財政支援を国などに働きかけていく」と答弁しました。

来年度の行財政運営方針(依命通達)では、「健康・長寿社会を実現する」という重点項目

実現する」という重点項目

第8回区民アンケートの結果		
配布11万枚 回収 1736名分の集約		
この1年で暮らしはどうなりましたか(複数回答)		
	人数	割合(%)
よくなった	33	1.98
変わらない	309	18.57
苦しくなった	1,298	78.00
その他	24	1.44
苦しくなった原因(複数回答)		
	人数	割合(%)
諸物面の値上がり	1118	86.13
仕事の減少	288	22.19
失業・倒産	103	7.94
年金の減少	529	40.76
医療費の負担増	576	44.38
介護費用の負担増	281	21.65
教育費の負担増	99	7.63
増税	644	49.61
ローンやサラ金などの返済	106	8.17
各種保険料の値上げ	477	36.75

削減、売却する計画なのに どうして花畑団地「再生」か!

住民追い出しの計画は撤回を

住民説明会や団地 居住者から寄せられた声

耐震性は大丈夫なのか、説明会で倒壊しないといったが、それなら1から11号棟は問題ありと指定した根拠はなんだったのか。西側は駅に近いから民間に売却しやすいと言うのは本当なのか。住民のことを考えて欲しい。(Dさん・72歳)

URの計画は、事業ブロックから継続ブロックに移るのに戸数がない計画だ。住んでいる人の保障がないのはおかしい。10年の計画だが、20年、50年以上住んでも大丈夫と言うものにすべきだ。URがやらないのに民間で責任もてるのか。(Bさん・57歳)

住民説明会には、いっぱい人がきていた。URの説明を聞いていたうちに不信感がいっぱいになった。説明したからと進められては困る。わからない所もあるよく説明して欲しい。住んでいる人はみんな真剣だ。歳を取ってから引越などできない、引越しのお金で差をつけるようだが、動きたくない。削減計画を白紙撤回するべきだ。(Nさん・75歳)

花畑団地・居住者の願いは、何よりもこの場所に住みつづきたいという気持ちなのです。私は何十年も家賃を欠かさず払い続け、ここに居られるものと思っていました。昨年十月住民説明会で団地耐震問題(1号棟から11号棟)は「耐震改修を計画的に実施する」と言っていたのに、国が方針を変えて都市機構・URは、これまでの「建て替え事業」

を見直し「再生事業」で新しいまちづくりを進めるとなりました。ところがURは耐震工事をしないで削減する事業ブロックの人たちの入居戸数も確保していません。

団地以外に行く人には一〇〇万円、引越料78万9千円を出すから早く出て行ってもらい、1年かければ「空家が増える。今は戸数が足りないが、丁度よくなる」という計算をしています。足が悪い人でも5階に詰め込もうというものです。高齢者が多く不安です。一般募集を再開して若い人たちを入居させてもらいたいのです。住民説明会では花畑団地の将来が見えません。URは「削減、売却する」ことを言いました。この計画は住民追い出しで許せません。「再生」計画は絶対反対です。(Kさん・70歳)



都市機構UR・花畑団地

私たちはURと賃貸契約を結んでいるから「大家」に勝手なことはさせません。URの都合で削減、売却するとは居住者追い出しです。一方的に明け渡しなどさせない。悪徳不動産と同じです。私は動きません。(Hさん)

かつて花畑団地は、近代的な「団地族」として脚光を浴びたものの今は「限界集落」と報道されるほどです。UR・都市機構は「募集」をしないまま長年、「建て替える」と空き家を増やし、修繕もしてきませんでした。URの説明会で「団地再生」と言うが、「花畑団地事業概要」だけでは隠された部分もあるのできちんとした「事業計画書」をもらい内容を知ることが大事ではないでしょうか。「再生」という住民を追い出すことでは

ないか。修繕をすれば建物には十分つかえる、住宅に困っている人も多いから空き家の募集を行って若い世帯を入居させて活性化などをすすめてもらいたいと思います。

「高齢者が多いから事業を早く」と言う人がいるが高齢の居住者が多いからこそ、よく話を聞いて欲しい。高齢者のために同じ様なところに移転できるように要求したい。住民の生活実態を見ないで事業化するのはおかしいことです。(Aさん・68歳)